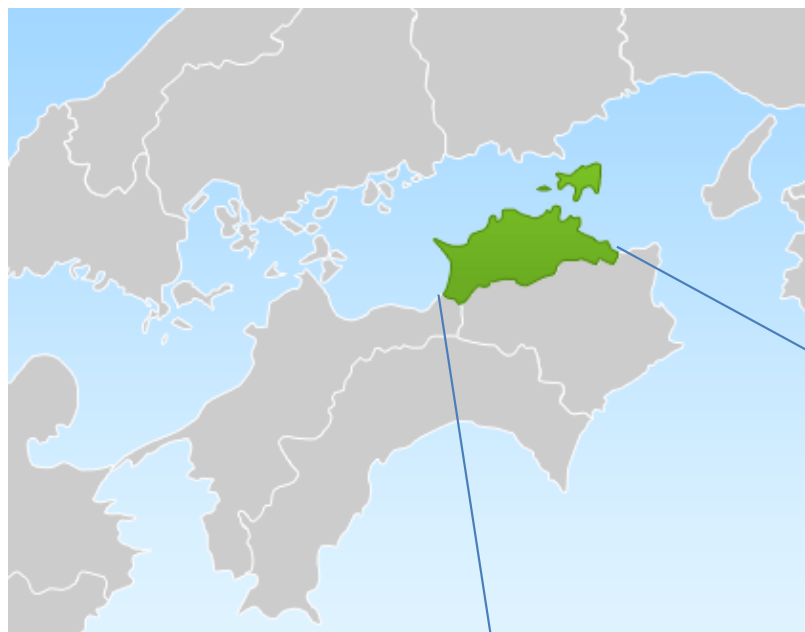


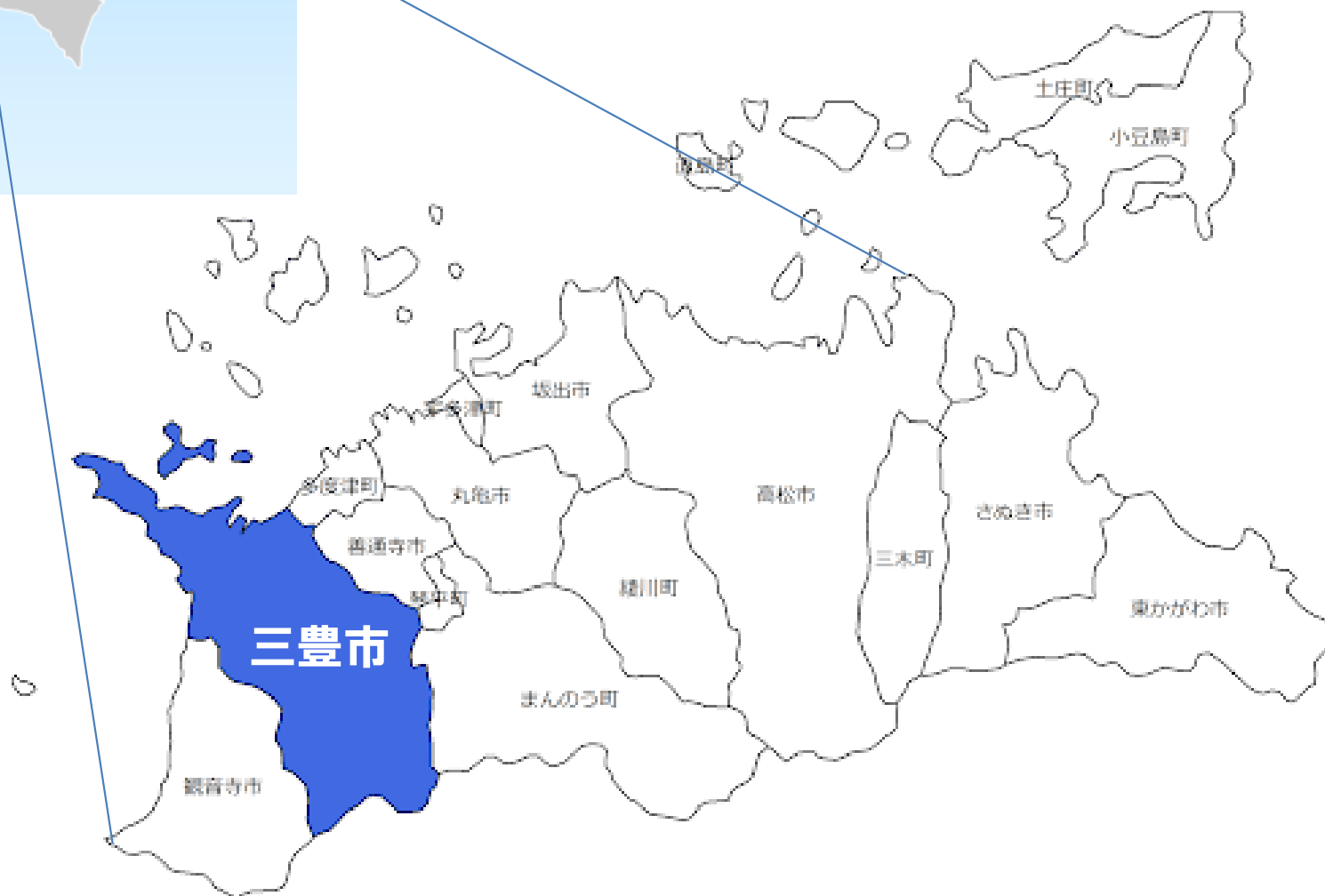
地域生活圏の事例について

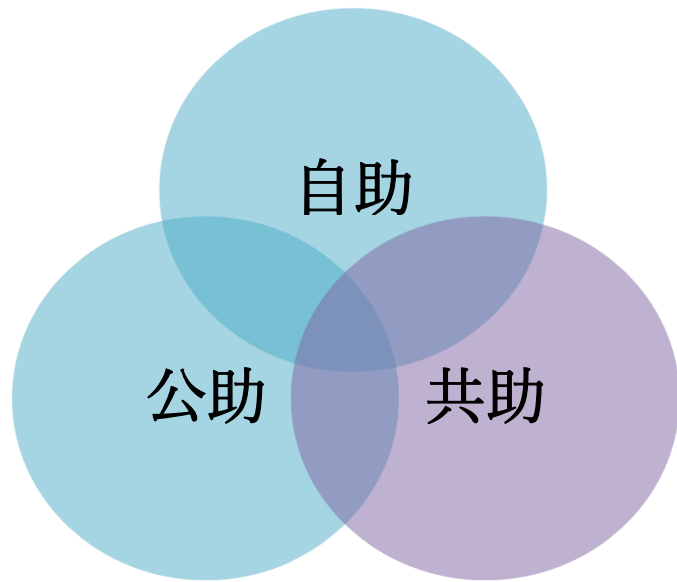
1. 香川県三豊市



香川県三豊市

7町の
対等合併
で誕生
(2006年)





(教育・医療・交通・エネルギーなど)
共有の課題でありながら、民間だけでも、
行政だけでも解決できない分野。

それらの地域の課題を解決していく
行政でも民間でもない
新しい領域組織が必要である。

今、この共助のデザインが重要

父母ヶ浜を守る人、父母ヶ浜を守る活動

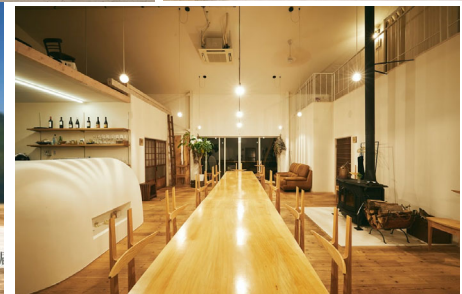


ちちぶの会（左から、菅さん・塩田さん・鶴田さん）

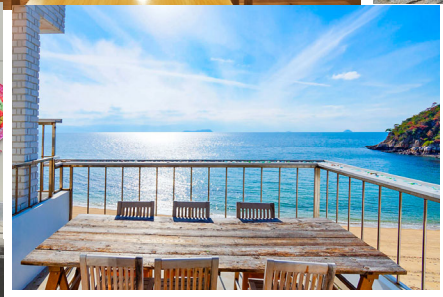
実は、夕日が綺麗なこの干潟は、
23年前に工場用地として開発が決まっている土地でした。
雇用も生み、経済がまわる。当時の時代背景からしても、当然のことでした。
そんな時に、たった3人で反対した方たちがいました。
最初は、小さな反発心で始めた清掃活動。
時代は流れ、工場の建設は中止となりましたが、それ以来ずっと、この3人はボ
ランティアで海岸のゴミ拾いをし続けています。
「だからこそ、裸足で歩ける綺麗な干潟がある。
どんなに経済が発展しても、これ以上に価値のあるものはない。」
今も尚、この清掃活動は続いており、「日本一夕日がきれいな海岸」を守り続け
ています。







100を超えるプロジェクト
が誕生





観光以上、移住未満。新しい滞在の仕組み

瀬戸内ワークスレジデンス

“GATE (ゲート) ”



WORKS

HOUSE

COMMUNITY



仕事

瀬戸内ワークスが選ぶ
地域の仕事をご紹介します。

地域に飛び込むときにネックになる最大のポイントが“仕事”です。農業、漁業からアウトドア、観光、建築までこの地域で様々な取り組みを行う企業を瀬戸内ワークスがしっかりと選出してご紹介します。



住まい

敷金・礼金・手数料など
一切不要！

地域の暮らしをスタートするときに、土地柄も分からない中、いきなり賃貸をして、家具をすべて揃えるのも大変です。GATEなら着いたその日から暮らしがスタートできます。



コミュニティ

地域の暮らしにチャレンジする人を
応援するホストカンパニー制度

三豊には地域でのあなたの新しいチャレンジをサポートする企業がいっぱいあります。GATEではそんな頼もしい地域のホストカンパニーのメンバーがあなたのチャレンジを応援します。

宗一郎珈琲（ウルトラ今川）



父母ヶ浜の長年の取り組みをもっと多くの人に知ってもらいたい。

宗一郎珈琲はゴミを出さないコーヒースタンドです。

さらに、カップの色でユーザーの声を汲み取る日本初のコミュニケーションコーヒーです。



もっと綺麗な浜になってほしい(月1の清掃を続けます)



もっとくつろげる場所がほしい(ベンチなどの設置を進めます)



夜を楽しむ場所がほしい(ナイトコンテンツの充実を進めます)



もっと三豊を知りたい(レンタサイクルなどの2次交通の整備を進めます)



もっと水回りがよくなって欲しい(トイレなどの整備を進めます)

瀬戸内 暮らしの 大学



地元がキャンパス みんなが先生

豊富な 講師 と 学びのフイ ールド

仕事の可能性を 広げるクラス

瀬戸内データサイエンティストクラス

最強のプレゼンテーションクラス

自分事になるデザイン思考クラス

財務戦略MG研修クラス

三豊ローカルスタートアップクラス

瀬戸内EBIKEガイドクラス

ローカル不動産ファンドクラス

暮らしと働くを最大限幸せにする

仕事場の作り方ウェビナークラス

など



個人会員



月額

¥12,000
(税込)

対象

個人

全てのクラスが受放題です。
瀬戸内・暮らしの大学 みと
よキャンパスの施設をご利用いただけます。

法人会員



月額

¥20,000
(税込)

対象

法人
(※1)

1アカウントにつき1クラス
1名までの条件で全てのク
ラスが受放題

都度会員



月額

都度払い

対象

個人・法人

それぞれのクラスのワンタ
イム料金で受講が可能

学生会員



月額

無料

対象

香川県に在住or在学の18歳
以下、香川高等専門学校在
籍者

全てのクラスが受放題で
す。
瀬戸内・暮らしの大学 みと
よキャンパスの施設をご利用いただけます。



みとよmobiの特徴

エリア内定額乗り放題の新たな乗合バス

#1

呼べばくる



自分の時間に合わせて、
170を超えるスポットから
迎え場所も行き先も選べ、
より自由な移動を可能に。

#2

アプリ
1つで完結



アプリ内での簡単な操作で、
乗降車の手続きが完結。
子供からお年寄りまで簡単に
利用可能。

#3

みんなで
育てる交通



乗降車スポットは月に2回更
新。常にユーザの暮らしに合
わせてmobiが成長します。
エリアも続々拡大予定。

みとよmobiのイメージ



地域4層

ローカル

内向的

外向的

関係人口

外部

観光客

関係人口・・・三豊に関心がある人 たち



外向的・・内と外のコミュニケーション が取れるローカルプレイヤー



混ざることによって地元だけでは生まれなかった
新しいプロジェクトが生まれていく

ローカル

内向的



「間」の
グラデーション

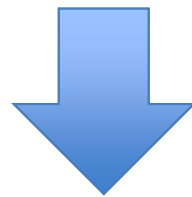


外部

観光客



ベーシックインカム



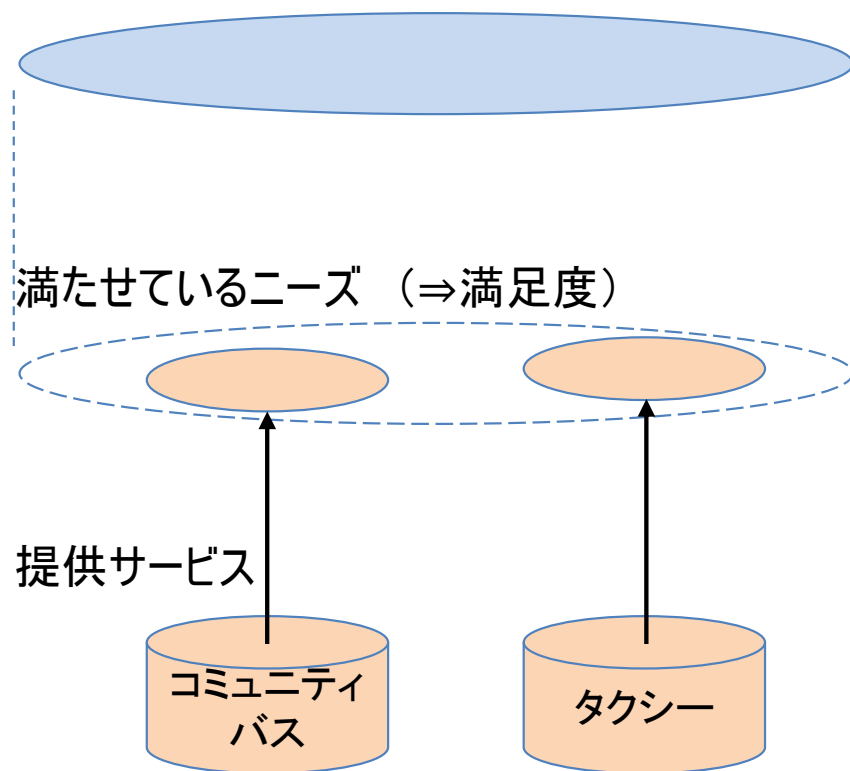
ベーシックインフラの時代

安心な暮らしに必要な
インフラを提供する

「サービス提供の形を変えて、サービスレベル(住民の満足度)を向上させながら、同時にコスト縮小」を目指す。

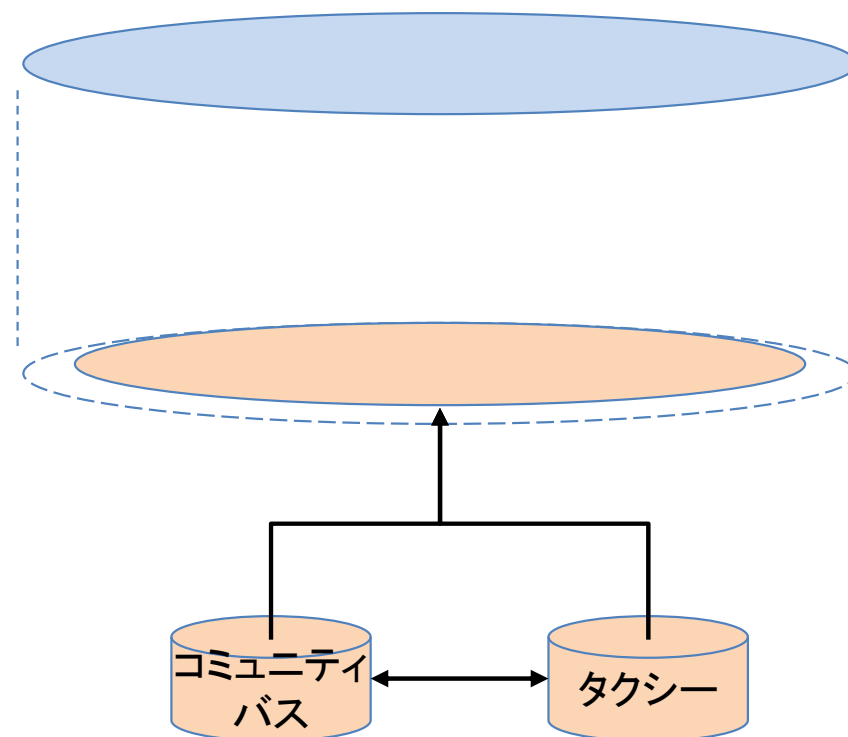
現状(サービス提供が別々)

地域にあるニーズ



それぞれ別々にコストがかかっている
地域全体のニーズを考えにくい

行政サービスと民間サービスの連携



連携してサービス提供を最適化することで、
効率化(コストダウン)と満足度UPを目指す 21

ベーシックインフラモデル

①余剰電力の売電
金額+電気代一部を
農業生産・教育に利用。

②生産物の市場価格での
計算による差額

③オンラインだけに限らず
地域コンテンツを充実

④コミュニティで共有する
地域交通

利益で地域再投資が可能



エネルギーの地消

電気代



食費(野菜)



健康・教育(習
い事)



交通費(ガソリン代)

①自分たちの自宅の屋根を提供。
(設備は地域電力が投資)

②農業の労働力も提供する。

月額6万円



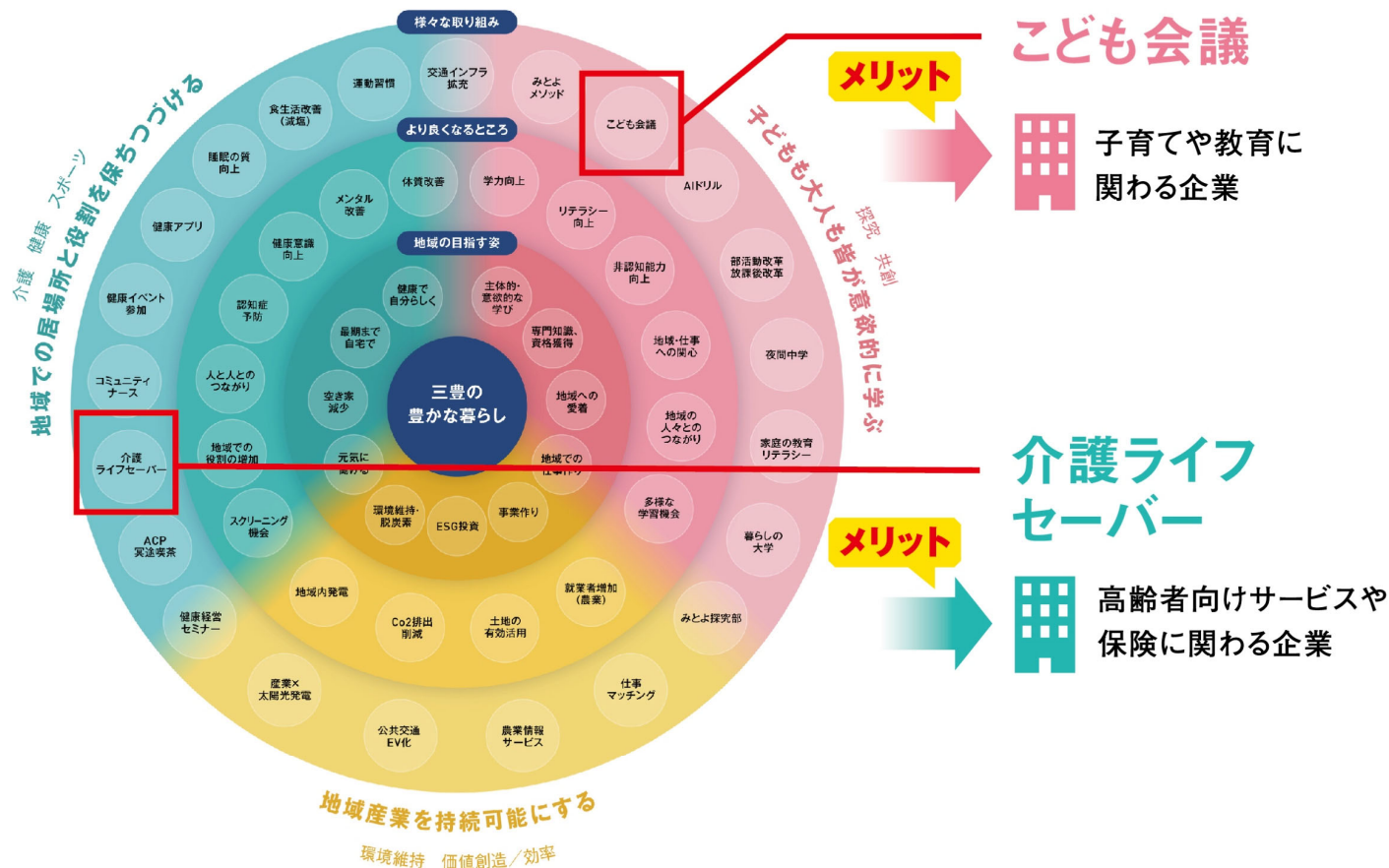
③災害時には自宅の発電電気により発電

④農業コミュニティからの食材の提供。

市場価値としては得

様々な取り組みを、三豊と一緒に始めませんか？

- ✓ 貴社にとっては、新しいサービスや技術を共創によるR&Dの場として
- ✓ 三豊市民にとっては、豊かな暮らしの向上を共助で生み出すために



取り組みが実際に
もたらした効果を、
データ・レポートとして
提供します

暮らしの「ライフセーバー」とは？

- これからますます進んでいく少子高齢化社会において、不足していく介護施設や介護人材を、地域まるごと介護力をつけて支えて行こうという考え方で、その役割を担うプレイヤーのこと
- ライフセーバーは、一定の「介護」するための知識やスキルを身に付け、介護的な視点で地域のハンディキャップのある人々を支えていく人材
- 「暮らしのライフセーバー講座」を受講した方に、認定していく仕組み
- 「暮らしのライフセーバー」はどなたでもなることができる



活躍の場面①
地域の移動を
サポート

活躍の場面②
日常生活を
サポート

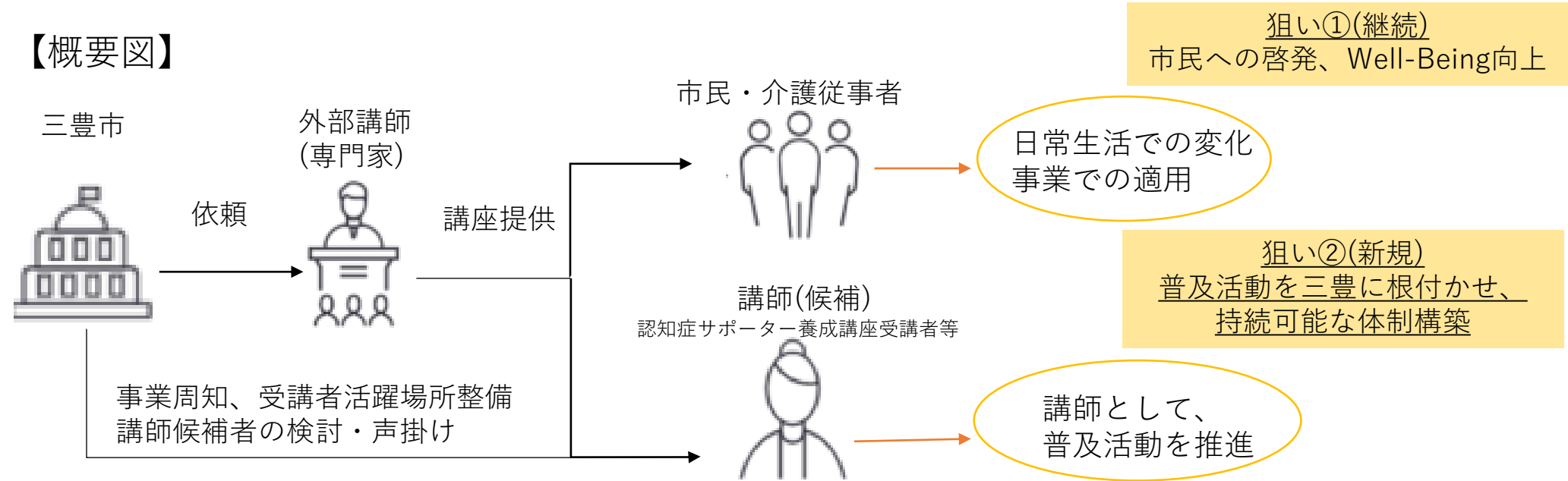
活躍の場面③
地域の見守りの輪

活躍の場面④
小さな障がいを
乗り越える

令和6年度の取組について

これまでの事業から必要性を認識。地域全体にこの考えを普及させることに取り組んでいく。
今年度は、ライフセーバーの更なる増加とともに、これらの方が地域における普及活動ができる講師となるための育成講座も実施することで、持続可能な体制の構築を目指す。

【概要図】



令和6年度の取組について

7/12 介護ボランティア講座受講経験ありの方向け講座



【参加者】

社会福祉協議会職員、まちづくり団体理事、自治会長連合会長
自分が現在介護に直面している一般の方、市職員 約25名

様々な立場の方が参加しており、それぞれの目標は異なるが、
介護現場に関わる人が、「その人らしい生活」を送るための考え方、
具体的にどういった行動ができるかを学べる講座。
座学＋技術実践講座の構成で、明日から使える知識もあり。

9・10月の受講者募集チラシ

暮らしのライフセーバー普及プロジェクト "介護を日常の困りごとから未来への希望へ"



他人(ひと)ごとにしない！暮らし人みんなが介護を教養のように身につける地域づくり

今、三豊市もその例外ではありません。また、全国的に少子高齢化も進行しており、本市では、高齢化率が33%を越え、今後も増加が予想されます。そんな中、地域の困りごとを地域で解決できるように令和4年度から始まったのが暮らしのライフセーバー養成講座です。

見て学び、体を動かして楽しむ、圧倒的な実践講座

自身が理想的な介護施設づくりに携わり、介護を「その人らしい生活を取り戻す」ための媒介であると定義した横木氏の講座は、介護のプロもそうでない人も一度聞けば目から鱗の内容に溢れます。昨年度も実施した本講座は、口コミが口コミを呼び、大規模な広報などはせずとも最終講座は定員オーバーになるほどの盛況にて幕を閉じました。また何度もリピートして学びに来られる方が多いのも特徴です。今年度は、さらに多くの方に学んでいただくことに加え、この考えを地域の中で普及できる人材作りにも取り組んでいきます。

講師：横木淳平 氏

1983年、茨城県生まれ。栃木県小山市の中央福祉医療専門学校を卒業後、2003年、茨城県の老人保健施設に就職。25歳で介護士に就任。15年、小山市の社会福祉法人丹緑会を母体とする介護付有料老人ホーム「新(あらた)」の立ち上げから携わり、施設長に就任。「その人らしい生活」「施設への出入り自由」などの本質的ケアを軸にした独自の介護施設を築いてきた。21年、STAY GOLD company代表取締役就任。著書に『介護3.0』(内外出版社)がある。

開催案内

日時	令和6年 9月25日(水) 13:00-16:30	申込	下記QRコードより お申し込みください
	テーマ：介護3.0とは、認知症ケアについて		
タイム テーブル	令和6年10月30日(水) 13:00-16:30	※2日間の受講をお願いします	
	テーマ：介護者の負担を減らす環境作りについて 介護技術実践型講座		
場所	12:45～ 受付開始	参加費	無料
	13:00～ これからの介護 介護3.0について		
参加費	15:00～ 休憩	参加人数	30人
	15:30～ 認知症ケアについて		
問合せ	〒768-0101 三豊市山本町辻333-1	三豊市地域戦略課	0875-73-3011
	三豊市役所山本支所2F 大会議室		

※本事業は、三豊ベシックインフラ整備事業の「共助サービス実施事業」として市が取り組むもので、一般社団法人地域包括ケア研究所が、三豊市から業務を受託して開催します

地域生活圏のモデルケース | 香川県三豊市

分野間連携

サービス（交通・人材育成・観光）

地元企業ら十数社による民間発での「共助」で、暮らしを豊かにする交通・教育・観光等サービスを実現（三豊市：人口5.8万人）

深掘り対象の課題：＜生活サービス＞地域の経営者らの地域活性化への問題意識と、地域外のイノベーターや賛同者（株主人口）との掛け算による生活サービスの実現

地域の現状・問題

→ 地域の課題解決の取組

＜生活全般＞

- 人口減少に伴い、**行政だけでは生活サービスの維持に限界**。
- 地域の衰退への歯止めをかけるといった、課題意識を有する**地域人材が存在するも、事業展開するには至っていなかった**。

取組概要

- **移住者や二地域での活動を志向する地域外の人たちと、従前からの地域事業者の経営者らが一体となり、それぞれのノウハウやリソースを掛け合わせる**ことで、宿泊施設の立ち上げ・運営、暮らしを豊かにするための交通や福祉などにかかる事業の立ち上げ・運営、次代の担い手や経営人材の発掘・育成といった多面的な活動を次々に展開。
- 関わる皆が日々のコミュニケーションの中で「自分たちの地域は、自分たちの手で暮らしやすく変えていきたい」という共通認識・決意を持ち合わせられたことで、**民間発での「共助」の取組**が実現。
- **地域事業者ら十数社が共同出資した株式会社が事業を運営**。収益は株主に配当され地域内で資金が循環。さらに地域外の出資を募り、事業拡大も目指す。
- 行政は共助のコンセプトのPRやデータ連携基盤の導入により、地域事業者によるサービス創出の後方支援を行うとともに、自ら共助サービスの実証も行い、取組の拡大を進める。

混ざることで地元だけでは生まれなかった新しいプロジェクトが生まれていく

内向的

ローカル
「間」の
グラデーション外部
観光客暮らしの
大学VILLAGE
VILLAGE

暮らしの交通

取組体制

瀬戸内ビレッジ株式会社（宿泊施設の運営、十数社による出資）、暮らしの大学株式会社（次代の担い手や経営人材の発掘・育成、十数社による出資）、暮らしの交通株式会社（地域交通mobiの運営、十数社による出資）、瀬戸内ワークス株式会社（地域外の人々が地域の仕事・住まい・コミュニティに入るきっかけとなる施設「GATE」を運営）、三豊市（これら活動の後方支援、データ連携基盤構築、暮らしのライフセーバー事業等）

取組・導入の工夫
（成功要因）

主体の連携

＜暮らしを豊かにするという目的意識の官民間での共有＞

- **暮らしを豊かにするという目的意識**を、毎月の打ち合わせを通じて民間・行政の間での共通認識としてブレることなく確認。その共通ビジョンのもとで、人材育成や交通、福祉等にかかる取組を推進。

事業の連携

＜地域の既存の生活インフラ事業者による共同出資による、新規サービスの実現＞

- **交通・小売・建材等の既存事業者ら**が、地域の暮らしを豊かにするための**新たな宿泊事業や教育サービス、交通サービス**を、共同出資で株式会社を設立して立ち上げ・運営。

地域の連携

＜移住者や「株主人口」のノウハウ・リソースを積極的に取り入れた事業推進＞

- 地域内のノウハウやリソースだけではなく、**地域外のイノベーターや本地域にゆかりのある人材、本地域の活動に賛同する「株主人口」とも連携**。
- 全国からの人材の受け皿として、**地域の仕事・住まい・コミュニティに入るきっかけとなる施設「GATE」を設置・運営**。

地域内経済循環

＜出資者である地域事業者への配当を原資とした再投資による資金循環の実現＞

- 複数の事業は、地域事業者を多く含む十数社による共同出資で組成された株式会社が運営。得た収益は株主に配当として還元されており、**地域内で資金が循環するスキーム**が実現。
- 加えて、直近では、SPC（合同会社三豊地域活性化ファンド）を設置。**本活動に賛同する地域外の「株主人口」からの出資**も受けることにより、**「共助」の考え方に根ざして事業拡大を目指すスキーム**も取り入れ開始。

2. 鳥取県米子市・境港市

Business Report 2015-2023

ローカルエナジー設立記者会見（2016年2月）

**地域の会社が地域の行政と一体となって起業する
経済循環を興すということが地方創生の最大の要**

秦野 一憲

ローカルエナジー株式会社
代表取締役（初代）



01



気候変動対策
(温室効果ガス排出量の削減 等)



地域経済活性化



人口の流出



経済の衰退



地球温暖化

資料：「米子水鳥公園HP」

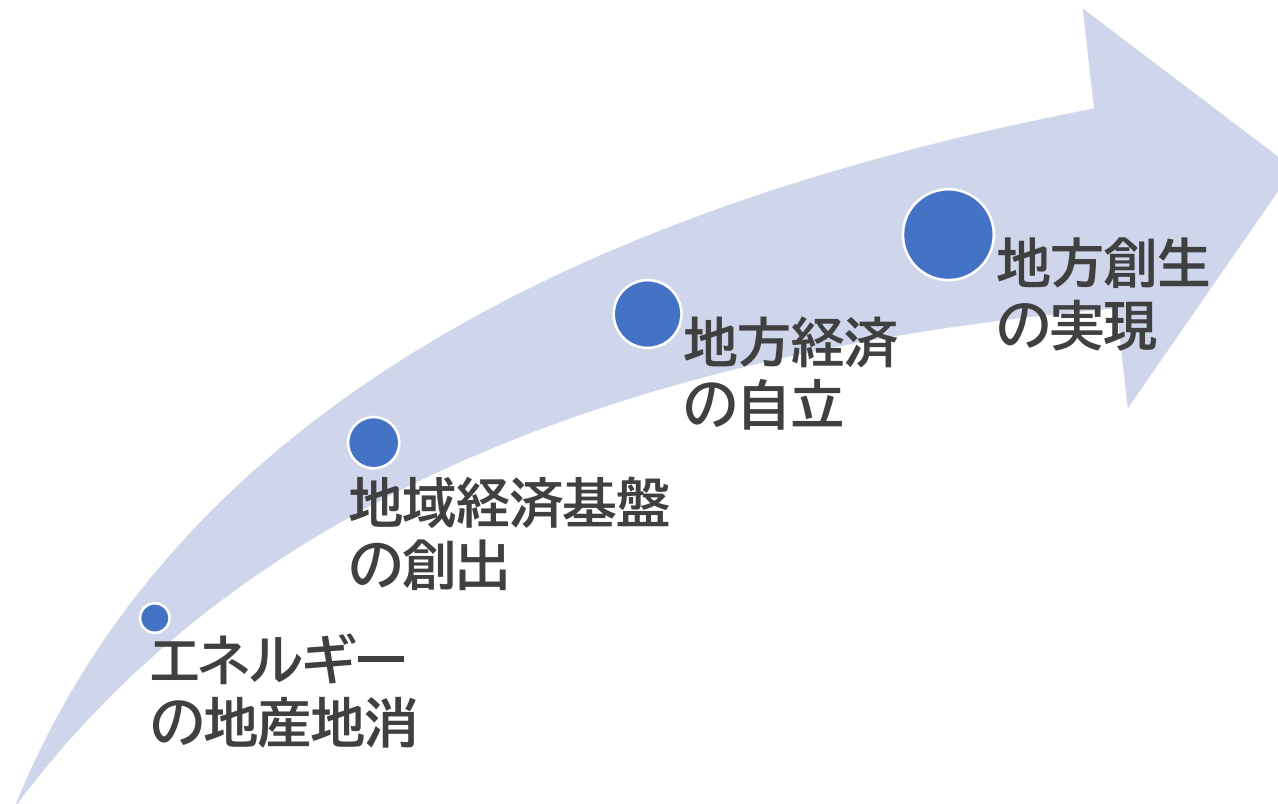
直面している問題を “ジブンゴト” として考え始めた。

エネルギーの地産地消による地域資金循環



【企業理念】

エネルギーの地産地消による新たな地域経済基盤の創出



企業理念に基づき実践

地域が“できる”ことは地域で。

- ✓ 資金の流出を抑える。
- ✓ 地域内で資金を循環させる。
- ✓ 雇用を創出する。

エネルギーは「地産地消」。

- ✓ 資金の流出を抑える。
- ✓ 地域内で資金を循環させる。

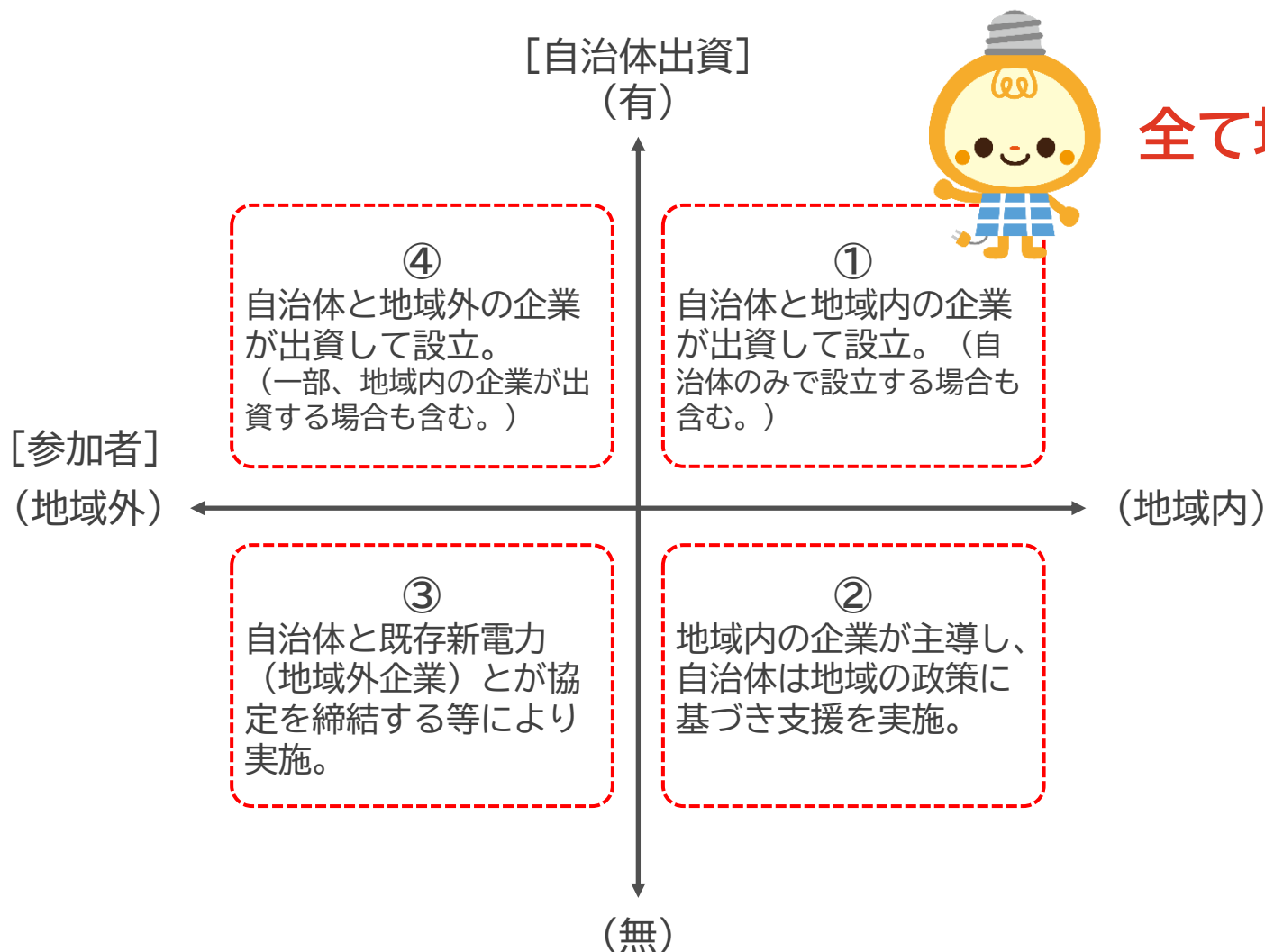
知見・ノウハウを蓄積・共有。

- ✓ 新しいサービスを創出する。
- ✓ 地域に新しい価値を創出する。

具体的には？

①地域が“できる”ことは地域で。

【地域新電力のポジショニング】



全て地元資本により設立

①地域が“できる”ことは地域で。

自治体（2）と地元企業（5）

- 隣接する2つの自治体の連携、地域の生活を支える5つのインフラ会社による連携。
- インフラ会社は、自社のもつ知見・ノウハウも活かしながら、「電力」という新しい事業に取り組むことによって、自社の新しい付加価値を創出。
- 株主連絡会を月1回開催し、弊社の経営や事業について共有。



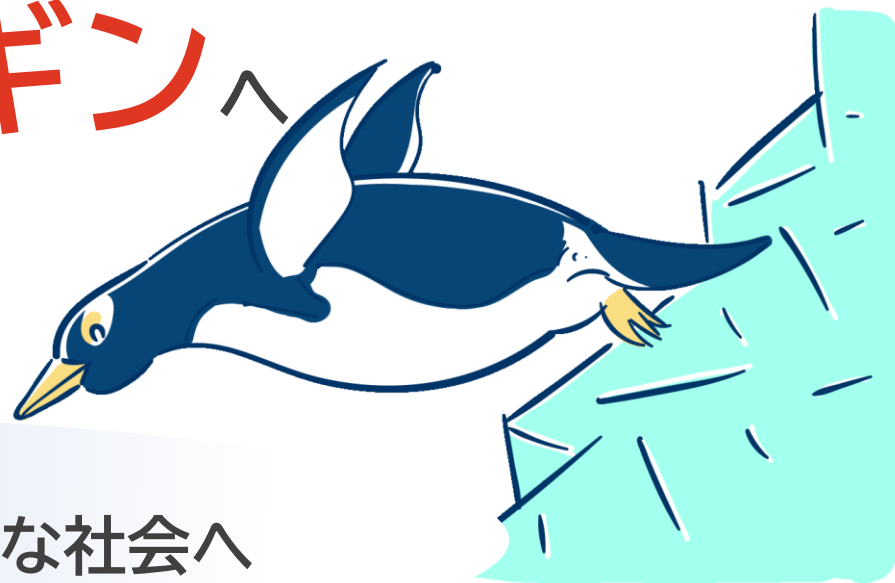
価値を生み出すローカルエネルギーとなるために

エネルギーを売る会社から

まちづくり

を行う会社

ファーストペンギンへ



脱炭素社会を実現し持続可能な社会へ

中間支援組織として知見・ノウハウ蓄積



中海テレビ放送



- 地域課題が多様化・複雑化する中、地域課題の解決に取り組む企業の創出、それを支える中間支援機能の創出、そして持続的な地域に向けたエコシステムの構築が活発化。
- 中海テレビ放送が、その知見・ノウハウを蓄積し地域へ共有。

府省庁施策として推進・検討されている主な中間支援機能

内閣府 Cao	国土 交通省 Mlit	経済 産業省 Meti	環境省 Moe	農林 水産省 Maff
官民共創 支援組織	ローカル マネジメント 法人	MAP' S+O O: オーガナイザー 中間支援機能 + ローカル・ゼブラ 企業	中間支援組織	農村RMO

地域シンクタンクの発足（2023年4月）



中海テレビ放送



地域シンクタンク



chukai TRI-SECTOR LAB

- 地域を取り巻く環境の変化が激しく、不確実そして複雑化した社会。
- 地域の課題を解決していくためには、**公共・民間・市民社会**というセクターの枠を超えて、**協調と共創**の取組が必要。
- 3つのセクター（トライセクター）による協調と共創を推進していくため、地域シンクタンク **Chukaiトライセクター・ラボ** を発足。
- **協調・共創のプラットフォーム**として、ヒト・モノ・カネ・情報（ナレッジ・ノウハウ）の循環を促進し、施策の立案から社会実装まで一貫した活動を展開。

事例：鳥取県日野町との包括協定締結



持続可能な地域づくりと豊かな生活の創造に貢献

地域生活圏のモデルケース | 鳥取県米子市・境港市

分野間連携

サービス（エネルギー）×防災

地元企業主導により地域新電力会社を設立し、エネルギーの地産地消による地域経済活性化と防災力強化を目指す

（米子市：人口14.4万人、境港市：人口3.3万人）

深掘り対象の課題：＜エネルギー＞ 民間主導×エネルギーの地産地消

地域の現状・問題

→ 地域の課題解決の取組

＜エネルギー＞

□ 人口減少下における、
地域経済の衰退

□ 1,000億円/年*に及ぶ
電気代の域外流出の抑制

*会社設立時に、ローカルエナジーが
鳥取県を対象として試算した金額。

□ 災害時の避難所の
電源確保

取組概要

- 地元ケーブルテレビ会社「**中海テレビ放送**」が中心となり、**官民共同出資（官：民＝1：9）により、地域新電力会社を設立。**
- 同社は、地域にある再生可能エネルギー等を調達し、地域の公共施設や一般家庭等で電力消費する、いわゆる**エネルギーの地産地消による地域経済活性化**を実現。この取り組みにより、新たな地域経済基盤を構築し、**持続可能なまちづくり**を推進。
- また、官民連携で避難所となる公民館へ蓄電池を設置するなど、**地域のレジリエンスの向上（防災力強化）**を推進。
- 2050年カーボンニュートラル実現に向け、地域新電力会社、地域金融機関と連携し「**脱炭素先行地域**」としての取組を推進。

取組体制

取組・導入の工夫
（成功要因）

ローカルエナジー株式会社（出資比率：中海テレビ放送50%、山陰酸素工業20%、三光10%、米子ガス5%、皆生温泉観光5%、米子市9%、境港市1%）

主体の連携 ＜民の力を最大限発揮する官民共創＞

- 自治体の関与は少数出資に留め、民間企業に経営の主導権を任せることで、経営判断の迅速性を確保。
- 電力需給管理業務を自社で実施し、電力事業の知見を蓄積するなど、**人材育成・雇用創出**を推進。

＜ケーブルテレビ会社が有する顧客基盤の有効活用＞

- **地域で普及しているケーブルテレビ会社（中海テレビ放送）との連携**による効率的な事業運営を実現*し、収益性と地域課題解決を両立。 *顧客接点を活用して効率的な営業や顧客管理を実現するなど。

事業の連携 ＜防災・教育等の他分野の取組の派生実施＞

- **米子市と協定を締結**して、避難所となる公民館へ蓄電池を設置。非常時対応型の仮想発電所（VPP）システムを構築し、平時は地域の再エネを効率的に利用し、災害時は蓄電池を非常用電源として活用。
- **小中高生への環境教育**に取り組むなど、普及啓発活動を通じた次世代人材の育成にも寄与。

地域の連携 ＜電力調達・供給範囲の広域化、1自治体内に閉じない地域のエネルギーインフラとして貢献＞

- 米子市・境港市等から電力を調達し、米子市を中心とした鳥取県西部地域に電力を供給。

＜類似取組地域とのインフラ・知見共有＞ *自治体が出資・協定で関与している地域新電力だけで11社。

- ローカルエナジーでは、加入する一般社団法人の同会員である全国各地の地域新電力*と連携し、システム共有によるコスト削減、知見共有を実施。

地域内経済循環 ＜地域新電力設置による地域内経済循環への寄与＞

- 地元企業らが出資する地域新電力の設置により、電気代の地域外流出を抑止。地域内の企業にヒト・カネ・ノウハウが蓄積する仕組みを形成。

